

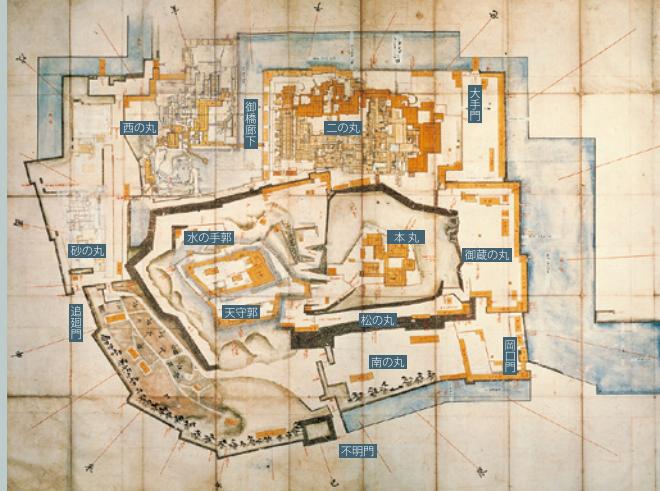
史跡 和歌山城

天正13年(1585)、羽柴(豊臣)秀吉が弟の秀長に命じて岡山(虎伏山)の峰に築城せたのが始まり。築城を担当した家臣の1人がのちに築城の名人といわれる藤堂高虎です。同年、秀長の城代として桑山重はる晴が入り、秀長家が途絶えると桑山氏が城主となり、豊臣・桑山時代に山嶺部分や岡口の整備が行われました。

慶長5年(1600)関ヶ原の戦い後、浅野幸長が入城すると、黒板張りの連立式天守を建て、現在の二の丸・西の丸に屋敷を造営し、居城として整備を進めます。大手も岡口から一の橋に変え、大手筋を基軸とする正方位の町割りで、城と城下町の形が造されました。

元和5年(1619)、徳川家康の10男頼宣が入城し、55万5千石の御三家の1つ紀州徳川家が成立。二の丸西部・砂の丸・南の丸を増築し、ほぼ現在の和歌山城の姿となりました。明治・大正期を経て、昭和6年(1931)国の史跡に指定され、長く地元で親しまれています。

城のシンボルである連立式天守は、寛政10年(1798)に黒板張りから白壁に外觀が一新されますが、弘化3年(1846)に落雷で焼失。その4年後に再建された2代目の天守閣も、昭和20年(1945)に空襲で再び焼失。現在の天守閣は、昭和33年(1958)に鉄筋コンクリート造で再建された3代目です。



わ か やま ごじょうないそうおんえ ず
和歌山御城内惣御絵図 (和歌山県立図書館蔵)

18世紀末～19世紀初頭に作成された絵図。幕末期の和歌山城内郭の様相探ることができます。建て替えの度に貼紙で現状を示しており、城内の建物を把握するための基本資料となっています。



《天守閣の利用案内》

- 入館料 大人(高校生以上)410円、小人(中学生以下)200円
※団体割引あり、土曜日は小人無料
※記載の入館料で、わかつやま歴史館 歴史展示室にも入場いただけます。
 - 開館時間 AM9:00～PM5:30(入館はPM5:00まで)
 - 休館日 12月29日～12月31日

《交 通》 JR和歌山駅、南海和歌山市駅から

和歌山バス「和歌山城前」または「市役所前」下車すぐ

《お問合せ》 ○和歌山城天守閣

〒640-8146 和歌山市一番丁3番地 Tel.073-422-8979

○和歌山市役所 和歌山城整備企画課(平日AM8:30~PM5:15)

〒640-8511 和歌山市七番丁23番地 Tel.073-435-1044



史跡 和歌山城に着いたなら

VRポイントで昔の景観を見てみよう!

▶ 現地で体験!歴史散策VRアプリ

▶ ストリートミュージアム®をご利用ください



和歌山城

好奇心をシェアするガイド Map

和歌山城天守閣
名勝 西之丸庭園
わかやま歴史館
茶室 紅松庵



和歌山城の歴史

和歌山城の歴史
和歌山城の歴史
わかやま城の歴史
わかやま城の歴史



紀州徳川家の成り立ちと武家文化

わかやま歴史館2階の歴史展示室では、和歌山城の築城から歴史はもちろん、茶の湯や能楽などの紀州徳川家の荘厳な武家文化を体感していただくことができます。また、現在の和歌山市域に生れ、近現代に各分野で活躍した5人の先人を取り上げ、ゆかりの実物資料を中心にその功績を紹介しており、合わせて城下町と和歌山の風土を知ることができます。

わかやま人物探訪



紀州徳川家伝来の金印

組み合わせて収納できる金属製の印。親獅子と子獅子、六面体の3つのパーツからなります。計8つの印面のうち、「南海之鎮」の印面は、紀州徳川家が西日本を監視する役割を担っていたことを示しています。



シアタールーム「よみがえる和歌山城」
近世後期の和歌山城内郭を学術的な考証に基づくVR映像で再現。かつての壮麗な城の姿をワイドスクリーンに映し出します(上映時間約12分)

和歌山市観光土産品センター

梅干しや醤油、地酒、お菓子、紀州てまりや漆器といった職人こだわりの民芸品など、和歌山のおみやげを取り揃えています。



和歌山市語り部クラブの
とっておき観光ガイドのご案内
和歌山市
語り部クラブの
ガイド情報は
こちらから!

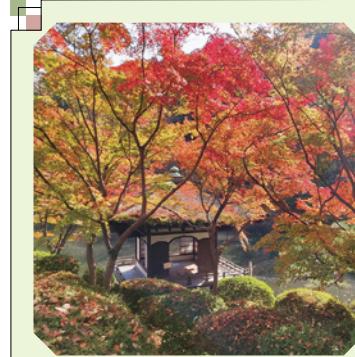
わかやま歴史館

■ 2F 歴史展示室 開館/AM9:00～PM5:30(入場はPM5:00まで)

料金/大人(高校生以上)100円、小人(中学生以下)無料
※和歌山城天守閣と共通入場券あり

休館日/12月29日～12月31日

■ 1F 和歌山市観光土産品センター 営業/(3月～11月)AM9:00～PM6:00、(12月～2月)AM9:00～PM5:00
休日/12月29日～1月3日 Tel.073(435)1184



大名庭園の風雅を楽しむ 名勝 西之丸庭園

紅葉が見事で「紅葉溪庭園」と呼ばれています。虎伏山の急峻な地形を巧みに利用し、精緻な石組を配した池泉回遊式庭園で、城の内堀を池に見立て、庭園の景色に取り込んでいるのが特徴。江戸時代初期に作庭され、庭石には「紀州の青石(緑泥片岩)」がふんだんに使われています。昭和48年(1973)に改めて整備され、同60年には国の名勝に指定されました。



御橋廊下と天守閣



西之丸庭園内にある数寄屋造りの茶室。昭和48年(1973)の庭園整備を記念して、和歌山市出身で「経営の神様」と呼ばれた松下幸之助氏の寄贈により翌年5月に落成しました。「紅葉溪」の「紅」と松下氏の「松」からの命名。徳川期にも数寄屋が建っており、その前の浅野期にも、書院式茶室がありました。現在は落ち着いた空間で、作法など気にせずお抹茶とお菓子を楽しめます。(有料)



営業/AM9:00～PM4:30
(入室はPM4:00まで)
休日/12月29日～1月3日
Tel.073-431-8648
※貸切利用日はご利用いただけません。



発掘から整備を目指して
和歌山城の地中には江戸時代に存在した建物の跡や生活品(埋蔵文化財)がたくさん残っています。平成18年(2006)に二の丸と西の丸の間に架かっていた御橋廊下が復元されましたが、復元に先立ち周辺で発掘調査が行われました。その際に橋の礎石が堀底から見つかったことで御橋廊下が架かっていた正確な位置が特定できました。また、二の丸御殿の大奥エリアの整備に伴い、平成20年度(2008)～平成27年度(2015)に行われた発掘調査では、庭園の跡や穴蔵といった当時の生活の様子がわかる埋蔵文化財が多く見つかっています。このように城の整備を行う際は、参考となる手がかりが地中に眠っていることが多いため、発掘調査が欠かせません。



